

と畜検査で発見される病気 牛編 No6 高度の水腫

☆ どんな病気なの？

水腫とは、筋間に余分な体液が溜まっている状態を指します（いわゆるズル）。後肢や項韧带（首の韧带）に局所的に見られるものは、一部廃棄となりますが、四肢や体幹など全身的に水腫が認められるものは保留し、精密検査を行います。ちなみに京都市と畜場では、平成22年度の保留はありませんでしたが、平成21年度には4頭が保留、うち2頭が全部廃棄になっています。

☆ 原因は？

局所的なものは、起立不能となった牛などにおいて、大きな血管が圧迫され、組織液が筋間に貯留することで起こります。我々も立ちっぱなしだと足がむくんだりしますよね。むくみも軽度の水腫の一種です。（皮下組織にできる水腫を特に浮腫と呼びます。）

全身的なものは、心不全や腎不全など様々な理由で起こりますが、現在、牛で注目されているのはビタミンAの不足です。肥育牛では、肥育中のある時期でビタミンAの摂取を制限することで、筋肉内にサシが入り、肉質が向上するのですが、制限しすぎると視覚障害、水腫などの症状が出ると言われています。

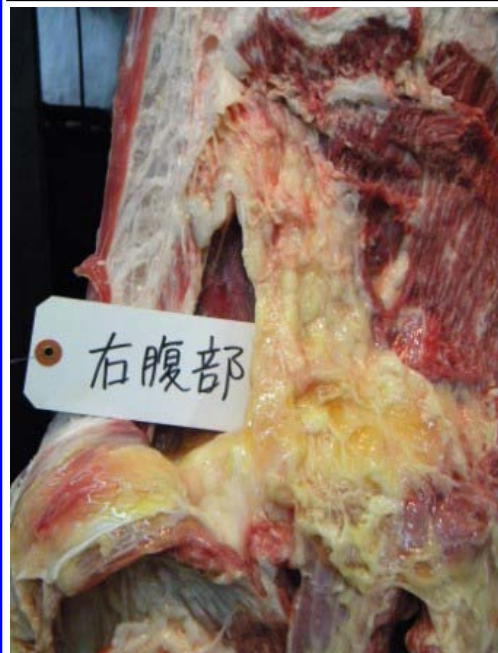
☆ 精密検査

血液生化学検査（血清アルブミン、総コレステロール値の低下）と、枝肉の水腫の程度の採点を行い、判定します。枝肉の水腫採点では、枝肉表面だけでなく、前切り（第5－6肋間の筋肉断面）における水腫の広がり具合を確認します。「高度の水腫」と判定されたものは、内臓も含め全部廃棄となります。

後肢で見られた水腫



水腫が高度になると、四肢だけでなく、体幹に及ぶこともあります。



前切りで見られた水腫

